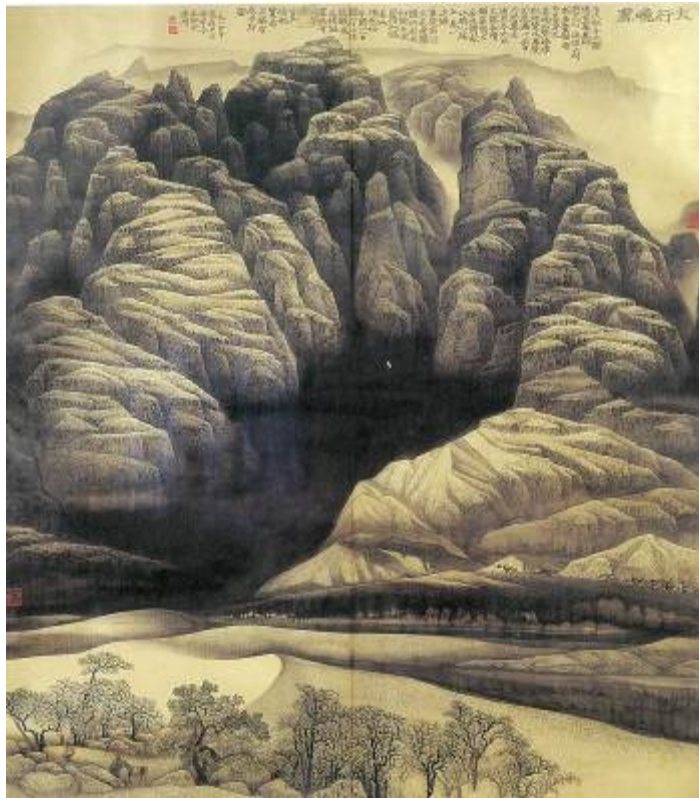


会館だより

2013年 5月号 第287号



公益財団法人 日中友好会館

「会館だより」5月号の内容

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・主催展
「日中友好会館所蔵 中国絵画名品展」
- ・主催展
「小説（ものがたり）と戯曲（しばい）
を描くー中国木版年画展」

《日中友好後楽会》

- ・春季ハイキング
- ・定例談話会
- ・後楽会中国旅行

活動記録

- ・「第3回日中国会議員公務員書道展」
- ・第22回観桜会
- ・後楽寮にて“留学と就職”についての講演会を開催
- ・中国留学生と鳩山由紀夫元首相が会談
- ・「JENESYS2.0」
中国青年メディア関係者代表団第1陣
クールジャパンをテーマに活動
- ・日中学生友好交流事業訪中団が
北京で交流

ご挨拶

- ・中国教育部より派遣された陳世華氏が、
留学生事業部に着任

お礼とご報告

- ・寄付のお礼とご報告

コラム

- ・理事長のツイッター
- ・草の根交流の大事さ
〈宮本 雄二（公財）日中友好会館 副会長〉

会館行事と人の動き

表紙

『太行山の朝明け』 孫本長作
中国画 1984年
(2013年4/15～5/17
「日中友好会館所蔵 中国絵画名品展」
より)

※只今開催中！
詳しくは2ページをご覧ください

行事案内

日中友好会館美術館

- ◆主催展「日中友好会館所蔵 中国絵画名品展」 会期：開催中～5月17日(金)まで
時間：10:00～17:00 入場料：無料 休館日：土・日・祝日
主催：公益財団法人日中友好会館
後援：中国大使館、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、(一財)日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、(一財)日中経済協会、(社)日中協会



斎白石「藤」中国画



孫本長「太行山の朝明け」中国画



劉徳潤「沂蒙の春」油絵

日中友好会館美術館では1989年の開館以来数々の中国美術を紹介する展覧会を行い、出展画家や多くの関係者から作品の寄贈を受けてまいりました。作家の方々には当時から著名でありましたが、更にご活躍の場を広げ、いまでは国内外に名を知られる画家になられています。本展では、所蔵品の中から中国画や油絵などの絵画作品を中心に厳選した作品を約40点展示しております。ぜひご来場ください。

◆主催展「小説（ものがたり）と戯曲（しばい）を描く—中国木版年画」展

会期：5月31日(金)～6月23日(日)まで
時間：10:00～17:00 入場料：無料
休館日：水曜

主催：公益財団法人日中友好会館

監修：三山陵（大東文化大学大学院講師）

出展協力：早稲田大学図書館、早稲田大学演劇博物館

後援：中国大使館、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、(一財)日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、(一財)日中経済協会、(社)日中協会（予定）



「取城都」

「年画」とは、中国で春節（旧正月）や慶事のときに、室内の壁に貼って飾る木版画のことです。題材は「福を呼び、厄を払う」といった願いが込められたものや伝説や故事など幅広く、鮮やかな色彩と素朴で大胆な図柄が特徴である年画は現在も中国の人々の間に深く浸透しています。本展では、戯曲、故事、通俗小説、説話が描かれた年画にスポットを当て、図案を介して年画に込められた民衆の想いや文化を紹介いたします。

.....
展覧会問い合わせ

【(公財)日中友好会館 文化事業部 電話:03-3815-5085 e-mail:bunka@jcf.or.jp】

日中友好後楽会

◆春季ハイキング

日 時：5月23日(木)朝8時00分

会館前(飯田橋)出発 予定

行 先：結城^{つむぎ}紬・紬の里^{かいらくえん}、偕楽園公園
(茨城県結城市、水戸市方面)

参加費用：お一人12,000円

(バス、昼食、入場料込み)

我が国最古の歴史を有する高級絹織物である結城紬。紬の里にて機織りや藍染など、日本の伝統文化体験を通して、後楽寮生との交流を深めて下さればと思います。また、梅の時期は過ぎていますが、自然溢れる偕楽園公園でサツキ、アジサイなどを楽しみながら、新緑の中に佇む好文亭、四季の原などゆっくり散策できると思います。雨天決行ですが、一部見学先を変更する可能性がありますので予めご了承ください。お申込みの方には、改めて詳しくご案内申し上げます。(事務局担当：大竹)

◆定例談話会

テーマ：「敦煌莫高窟壁画の保護」

日 時：6月12日(水)17:00より

会 場：日中友好会館地下1階大ホール

参加費：1,500円(会員)

非会員の方はお問合せください。

シルクロードの要衝で、仏教壁画や彫刻の宝庫である敦煌石窟は風化や浸水の危機にさらされ、観光客の吐く息で劣化が進んでいます。今回の談話会では、敦煌莫高窟壁画の現状、保護や管理方法について、後楽寮生で敦煌研究院保護研究所の陳港泉さんから、お話しいただきます。

文化財の保護と観光振興の矛盾をどう緩和するか、一緒に学びましょう。どうぞご聴講ください。

談話会後は、館内にて懇親夕食会を予定しております。(事務局担当：緒方)

◆後楽会中国旅行

今年の中国旅行が、下記のように決定い

たしました。今回は、雲南省麗江・大理とその周辺を訪れます。

麗江古城は、ナシ族がすむ瓦屋根の建築が並ぶ、水路が張り巡らされた古鎮で世界文化遺産に登録されています。大理はペー族の伝統建築や文化が豊富です。このあたりは古くよりチベットと雲南省を結ぶ茶の交易路「茶馬古道」が通り、その宿場町として栄えた古鎮が多く点在しています。そこにはナシ族、ペー族、イ族などの少数民族が暮らし、独特の文化が色濃く映し出されています。今回はその古鎮を巡っていきます。最終的な申込み締切は、8月となりますが、振込案内や諸連絡がございますので、ご希望の方はまずはご一報いただきますようお願いいたします。(担当：小林)

◎ 日程 11月18日(月)～11月25日(月)
7泊8日

◎ 行先 雲南省麗江・大理・昆明

- 1日目：成田より国際線にて中国へ、国内線乗継ぎ、麗江へ移動
- 2日目：麗江見学(世界遺産 麗江古城、玉泉公園、トンパ文化博物館、木府等)
- 3日目：麗江見学(玉龍雪山、白沙村、束河村、茶馬古道博物館等)
- 4日目：麗江より専用バスにて大理へ途中、劍川県見学(長江第一湾、石鼓鎮、沙溪古鎮等)
- 5日目：大理見学(周城村、崇聖寺三塔、大理古城、喜州村等)
- 6日目：大理より専用バスにて昆明へ途中、祥雲県雲南駅鎮、楚雄市博物館を見学夜、元後楽寮生と交流夕食会
- 7日目：昆明見学(西山の龍門、石林等)
- 8日目：昆明より国内線を乗継ぎ、成田帰着

◎参加費用 会員 ¥208,000/1名
(2人一部屋利用の場合、国際線燃油チャージ代別)
詳細はお問い合わせください。

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林、緒方、大竹
電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263
メールアドレス：kourakukai@jcf.or.jp

活動記録

◆「第3回日中国会議員公務員書道展」 実施報告



開幕式でのテープカット

左より山口那津男参議院議員、言恭達氏、湯本淵公使参事官、江田五月会長、林芳正参議院議員、張傑氏

3月25日から28日の会期で、日中両国の国会議員・公務員各50名の書道作品を展覧した「第3回日中国会議員公務員書道展」が開催されました。

初日に執り行われた開幕式には、当会館の江田五月会長や中国書法家協会副主席の言恭達氏を団長とする17名の代表団と、中国大使館の湯本淵公使参事官や林芳正農林水産大臣（参議院議員）、山口那津男公明党代表（参議院議員）をはじめとした国会議員の方々にご来賓としてご臨席を賜りました。



交流揮毫会にて筆をとる言氏(左)と江田会長(中央)

開幕式終了後には会場内で交流揮毫会が行われ、中国の代表団の方々にご来場頂いた日本の議員や書家の皆様に見事な腕前を披露して頂きました。会場を移し開催された祝賀会は、さらに多くの方にご来場頂き盛会となりました。書道は一衣帯水にある日中両国で共通して長きにわたり親しまれ、育まれてきた文化・芸術であることを改めて実感いたしました。

この場をお借りして、本展開催にあたりご尽力いただきました関係各位に改めて御礼申し上げます。

(文化事業部)

◆第22回観桜会



会場から見た満開のしだれ桜

第22回となる観桜会が、3月26日(火)小石川後樂園内涵徳亭で開かれました。中国大使館から呂克儉公使をはじめ、政治部、文化部、領事部、商務部より多くのご出席をいただき、また、会館理事、評議員、関係者、後楽会会員、寮生委員、元会館職員など合わせて98名が集まりました。

今年は桜が満開の時期にあたり、会場から見えるきれいな桜を愛でながら、おのおのがリラックスしたムードで交流を深めました。

(後楽会事務局)

◆後楽寮にて“留学と就職”についての講演会を開催

2013年3月24日、後楽寮第38期寮生委員会は留学生事業部の陳世華先生のご協力のもと、中国科学技術大学計算機学院博士課程指導教授、趙保華教授をご招待し、日中友好会館後楽寮において、在寮生のために“留学と就職”をテーマにした講演会を開催しました。

趙保華教授は、自身の専門分野である計算機専攻を例にとり、自身を学生の養成と関連づけて、就職指導などの豊富な経験に基づき、現在の国内外の就職状況を詳細に分析し、いかに日本留学中の学問研究の予定を組むか、さらにはどのようにして現在の厳しい就職状況に対応するかなどについて、後楽寮生達に熱心な指導を行いました。

趙保華教授の講座の内容は、主に四部に分かれた内容で構成されていました。

第一に優秀な留学生として、在日留学の期間中に必ず日本語を習得すること。後楽寮生は皆日本に留学し、大多数の者は日本での生活が3年から5年となります。これは、日本語を勉強し使ってみる貴重な機会となります。さらに日本語を習得することは、日本に滞在する間の学習研究や日常生活の際に便利だけでなく、卒業した後に就職する際にも大変な助けとなることです。

第二に後楽寮生が学問を続けている期間、沢山の論文を発表し、特に高水準の論文を発表することです。これは国内外の大学などの機関が人材を選出する際の重要な指標となります。

さらに、沢山の企業の情報を理解することです。企業に関心を持つことは、実際に仕事をする時や問題解決能力のために必要となります。

第三に、留学している期間に処世術を会得し、良好な人間関係を築いていくことです。日常的な学習生活の中で指導教授と良好な人間関係を築き、周りにいる学生と団結していくことは非常に大切になります。

学会会議に参加する際、世界各地の専門家達から教を賜り、豊かな人間関係を築くうえで、このことは後楽寮生のこれからの仕事や研究活動にとって重要になることです。

最後に、趙教授の提案によりますと、帰国して起業する意思のある寮生は、会社の長期的な発展のため、新製品を創造し、特許を申請するようにすることが、このような厳しい市場競争の中で先手を打つことができる秘訣であるとのことでした。

趙教授の講座の中では、実際の仕事の中で遭遇した具体的な状況が例示され、そのことが講座を活発化させまた具体化させ、多くの者から熱烈な拍手を受けていました。講座が終了した後、陳先生は、日本に留学している学生たちに先駆的な感覚を持ち、国内の動向に注意を払い、国内の状況を理解し、自身の将来について明確な目的を持ってほしいとの希望を特別に強調され、講座を締めくくりました。



講演後の交流会

その後、趙教授と陳先生はさらに講座に参加した学生と交流を深められ、辛抱強く皆様からの質疑に答えられていました。会場は熱烈な雰囲気に入れられ、講座は会場の熱烈な拍手の中終了しました。さらに、沢山の寮生が講座終了後も、趙教授に就職や研究生活を続けていくうえでの教をいただいて、今後も機会があれば趙教授のご指導を賜りたいと希望していました。寮生はしきりに今回の講座で得られたものは大きかったとの感想を述べ、趙教授の講座を通

じ、多くの寮生達が学問研究の方向や将来の仕事の目標を明確にすることができました。(後楽寮寮生委員会)

◆中国留学生と鳩山由紀夫元首相が会談

2013年2月6日午前、中国留学生友の会のご手配により、鳩山由紀夫元首相の招待を受けて、日中友好会館留学生事業部の陳世華先生の引率の元、後楽寮の留学生10名と全日本中国留学生学友会のメンバー等が鳩山会館を訪問した。鳩山ご夫妻は留学生を心温かく歓迎された。



「和為貴」の書の前にて

初めに、ご自身のご家族と政治理念について紹介された。鳩山さんは目下の日中関係は非常に複雑で、困難な時期に直面しているが、日中関係が如何に変化しても、自身はこれまでの鳩山家に受け継がれてきた友愛政治を継承していくと話し、周辺諸国との共同発展と友好関係を強化し、日中関係の早期回復に期待を示した。又、今年1月17日に南京を訪問し、南京大虐殺記念館を訪れた時の事について、鳩山さんは日本軍が曾て犯した罪についてお詫びし、日本人特に若い人がもっと歴史を学び、このような悲劇を二度と繰り返すことがないように、歴史を正しく認識し、日中両国の相互理解の促進に期待を示した。最後に、鳩山さんは在日の中国留学生が勉強に励み、日中両国の若者が相互の国家での留学の経験を活かし、相互理解を深め、帰国しても又日本で仕事することにしても日中両国の平

和と世代友好に貢献することを期待していると話した。

鳩山元首相のご招待を受け、東京大学、早稲田大学、東京工業大学、東京学芸大学等の大学に在籍する中国留学生も鳩山ご夫妻に自分達の日本での勉強、生活状況、日本に来てから感じた事や考えたことについて話し、日中両国の世代友好に自らの力を尽くしたい気持ちを伝えた。会談の間、日中友好会館後楽寮の留学生王小雄さんは即興で描いた「日中友好の神様」と題した鳩山由紀夫さんの似顔絵を贈り、日中両国の友好事業に尽力し続けている鳩山由紀夫さんに感謝の意を表した。

会談後、鳩山さんのお招きで学生たちは鳩山由紀夫さんの祖父であり、日中間の民間貿易発展協定の締結に貢献し、日中友好関係の基礎を作り上げた鳩山一郎元首相の記念室と鳩山由紀夫さんの父であり、日中平和友好条約締結時に日本の外務大臣だった鳩山威一郎さんの記念室を見学した。又、鳩山由紀夫さんの曾祖父である鳩山和夫さんが早稲田大学で初めて中国留学生の受け入れを決定した早稲田大学の学長であり、その規模は日本各大学のトップであったこと等について知ることができた。このように、鳩山家と中国との関係の深さから、そして日中の友好発展に多大な貢献をされてきたことを知ることができた。

今回の中国留学生と鳩山ご夫妻との交流を通して、より全面的に鳩山家が日中友好関係の推進に尽力してきたことを知ることができたと同時に、新しい世代の中国留学生の考えと認識を伝えることもできた。このような交流が、必ずや今後の日中関係の改善や日中交流と相互理解の推進力として活かされていくことになると思った。

最後に、鳩山ご夫妻は祖父鳩山一郎さんが書いた「和為貴」の扁額下で、中国留学生一人一人と記念撮影をし、鳩山会館への訪問に感謝した。

(後楽寮生 房 迪)

◆「JENESYS2.0」

中国青年メディア関係者代表団第1陣 クールジャパンをテーマに活動

2013年1月、インドネシア訪問中に安倍総理が、2007年から実施した「21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS）」の後継事業として、2013年よりアジア大洋州諸国との間で3万人規模の青少年交流事業「JENESYS2.0」を実施することを発表。当公益財団は外務省の拠出を受け、同事業のうち日中青少年交流事業を実施することになった。

3月10日から3月17日までの日程で、「JENESYS2.0」中国青年メディア関係者代表団第1陣（団長＝武虹剣・中国国務院新聞弁公室国際局局長）が来日した。



歓迎会で団員と歓談する
江田五月(公財)日中友好会館会長(右)

中国青年メディア関係者代表団は、中国国務院新聞弁公室が派遣する、中央・地方の若手メディア関係者、メディア行政関係者の招聘事業で、2010年から継続しているが、今回より「JENESYS2.0」の一環として行うことになった。第1陣は87名が来日し、日本のメディアに関する視察、交流のほか、「クールジャパン（コンテンツ産業、伝統工芸）」をテーマに活動した。

海外メディア独自の視点から 日本の魅力を発見

代表団一行は、外務省において今回のテーマである「クールジャパン」を含めた広報文化外交の現状についてブリーフを受け

た後、海外メディア独自の視点で日本の強み、魅力を発見するべく、東京を代表する渋谷、原宿、秋葉原の3エリアに分かれ、「日本のここがクール」というテーマで自由取材を行った。団員たちは“ファッション、アニメ、流行”といったキーワードを実際に目の当たりにしただけでなく、積極的に街頭インタビューを実施、団員それぞれが主体的に「クールジャパン」というテーマに向き合った。

その後の地方訪問では、第1分団、第2分団は青森県を訪問した。

第1分団はクールジャパンの中でも伝統工芸や伝統文化に焦点を置き、津軽を代表する伝統工芸・津軽塗の工房「田中屋」で、実際に職人の作業風景を見ながら津軽塗の特徴や技法などのレクチャーを受けたほか、「津軽藩ねふた村」で津軽三味線の演奏体験や弘前ねふた祭りの歴史に触れた。

第2分団は食文化に焦点を置き、明治に建設された歴史ある料亭「翠明荘」で、掛け軸や生け花、郷土や季節の食材、器、盛り付け、言葉遣いにいたるまで心を尽くす日本のもてなし文化についてレクチャーを受けた。また、日本で唯一のりんご専門の試験研究機関「青森県産業技術センターりんご研究所」を訪問、今から約140年前にたった3本の苗木の栽培から始まり、日本一の生産地にまでなった青森県のりんご栽培の歴史や、病気対策の研究、品種改良などについて説明を受けた。

いずれの分野においても、地域の人々と文化とのかかわりを重視し、当事者だけでなく一般の人々も一体になり、郷土に対する愛着と努力と責任感を持ってそれらの文化を守り、継承していることに団員たちは深く感銘を受けていた。

第2分団はそのほかにも東京で地方自治体のアンテナショップを視察、地域の食の豊かさ、魅力を発信するアンテナショップの役割や“ゆるキャラ”に代表される日本独特の広報展開、経済効果などについて視察した。

第3分団は漫画・アニメに代表されるコンテンツ産業に焦点をあて、地方では札幌市を訪問した。世界中で人気を博しているバーチャルアイドル「初音ミク」を開発したクリプトン・フューチャー・メディア社を訪問、巨大マーケットを創出した「初音ミク」についてレクチャーを受け、世界をけん引する日本のコンテンツ産業の底力や、更なる発展性について学んだ。また札幌市役所より観光都市・札幌市の都市ブランド戦略、「初音ミク」を利用した観光プロモーションの取り組みなどの紹介を受けた。さらに東京では「三鷹の森ジブリ美術館」を視察した。



地域とともに受け継がれる津軽三味線の演奏を体験

また代表団は、日本が誇る最先端技術研究の現状を知るべく、東京大学先端科学技術研究センターを訪問、同センターの特徴や研究分野について紹介を受けた後、竹川暢之准教授から「グローバル化する大気環境問題」についてのレクチャーを受けた。昨今深刻化しつつあるPM2.5の問題も含め、発信力のあるメディア関係者に対し、「客観的に大気環境問題をとらえ、正しいデータをもとにわかりやすい報道を心掛けてほしい」とのメッセージ性のある内容となった。

日中のメディア関係者が交流

メディアに関するプログラムとして、東京では第1分団が共同通信社、第2分団がNHK、第3分団がフジテレビを訪問、また青森県では第1分団・第2分団が東奥日報社を、札幌市では第3分団が北海道新聞社を訪問した。

いずれもそれぞれの取り組み、報道姿勢などの紹介を受けたほか、メディア関係者同士で懇談した。折しも訪日期間中に東日本大震災からちょうど2年目を迎えたこともあり、震災報道に関するルールや被災地の取材で配慮する点、記者の二次被害を防ぐための留意点などにも話が及んだほか、団員の多くが関心を寄せている既存メディアに対する新しいメディアの台頭、共存について、またテーマであるクールジャパンについてなど、さまざまな質問があがった。

地方紙においては、さらに地域の魅力を発信する取り組み、次代を担う子どもたちへのアプローチなど、地域に密着し、地域の将来を見据えたさまざまな取り組みに団員たちは関心を寄せていた。

今後の日中関係の発展に期待

8日間の活動を通し、団員たちはそれぞれの視点で日本を見て、日本人と触れ合い、「互いを思いやる心の大切さ」も含めた「クールジャパン」を体感した。歓迎会で武虹剣団長が「北京の空気もいつか東京のようにきれいになると信じている。同じように中日両国の関係も、濃霧を突き破り、希望に満ちた明日を迎えることができると確信している」と述べた言葉のとおり、団員たちはそれぞれに得た訪日の成果を、今後の業務に生かすことを決意し、無事帰国の途についた。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。(総合交流部)

◆日中学生友好交流事業訪中団が北京で交流

日中学生友好交流事業訪中団(団長=角田義一・元参議院副議長、副団長=坂下重信・日中学生友好交流事業事務局、一行計17名)が、2013年3月21日から3月24日の日程で北京を訪問した。中国国際青年交流センターが受け入れを担当し、日本側派遣実施を当公益財団と日中学生友好交流事業事務局が担当した。



東日本大震災についてプレゼンする
福島大学の学生

本団は、外務省が平成24年度に実施する「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流(キズナ強化プロジェクト)」の一環として実施され、東日本大震災被災地である岩手県・宮城県・福島県の高校生と大学生、及びこれ以外の地域の大学生が参加した。北京で中国人学生らと交流活動を行ったほか、故宮博物院、万里の長城等の歴史遺跡を見学した。参加した学生は、交流を通じて現地の学生らと親睦を深めるとともに、悠久の歴史と経済発展著しい中国の現状について理解を深めた。

日中学生交流活動と

日中友好交流記念式典への参加

日中学生交流活動には、日本語を学ぶ中国人大学生と北京の大学に留学する日本人学生が参加した。まず、福島大学の学生2名が「東日本大震災の現状とこれから」をテーマにプレゼンテーションを行い、続いて「震災と防災」、「文化交流」、「身近な経済」、「環境」、「教育」の5つのテーマにおいて「日中の懸け橋として自分達ができること」をグループごとに話し合った。グループ討論の成果は、全体発表の場で全員に共有された。夜の懇親会では、三上正裕駐中国日本国大使館公使より両国の若者に向けた熱いメッセージが送られ、岩手県の高校生が「さんさ踊り」を披露するなど日中学生によるパフォーマンスでも大いに盛り上がった。

日中の学生は、地球をかたどった砥部焼の美術工芸品を中国人民対外友好協会に寄贈する日中友好交流記念式典にも参列し、井頓泉同協会副会長より「将来、中日交流の懸け橋と友好事業の後継者となってほしい」との期待を込めた言葉を受け取った。

中国の歴史、現状を学ぶ

このほか、訪中団一行は、故宮博物院や万里の長城等の世界遺産見学を通じて、中国の悠久の歴史に思いをはせつつ、見学途中で目にする近代的な街並みに、経済発展著しい中国を感じた。一方で、観光地で目にした障害者の物乞いの姿に衝撃を受け、明暗部分を併せもつ中国社会の現状についても考えるきっかけとなった。また、バラエティに富む本場の中華料理に舌鼓を打ちながら、中国四千年の食文化を体感した。



テーマ別グループ討論
活発な意見交換が行われた

3泊4日と短い日程ではあったが、「百聞は一見にしかず」の言葉通り、実際に中国を訪れ同世代の中国人学生と膝を突き合わせて話し合ったことで、中国や中国人に対して新たな発見があった。参加者から寄せられた感想から、それぞれが訪中を通じて多くのことを感じ、大きく成長したことがうかがえた。

今回の訪中団実施にあたり、ご指導ご協力いただいた関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

ご挨拶

◆中国教育部より派遣された陳世華氏が、留学生事業部副部長に就任



陳世華と申します。この度、中国教育部の代表として、日中友好会館留学生事業部に派遣され大変光栄に存じます。

私は1999年に四川大学を卒業し、南京工業大学外国語学部のスタッフとして日本語教育と日本文学研究に従事し、2001年10月から2005年8月まで鹿児島大学に留学した後、南京工業大学で引き続き日本語関係の仕事に従事してきました。その間、2010年と2011年の丸2年間、大学と地方の産学研連携のため、江蘇省南通市崇川区科学技術局へ副局長として派遣されました。また、鹿児島市フレンドシップパートナーと鹿児島大学友好大使として、積極的に中日の友好交流に携わり、政府間や大学で多彩な交流活動を繰り広げました。

困難な局面に入っている両国にとっては、国民レベルの交流が今こそ重要だと思えます。私は留学生事業部で“責任”と“仁愛”の理念で次世代を担う若い人々の努力を積極的に後押ししてまいりたいと思えます。

これから会館職員と一丸となって努力してまいりたいと考えておりますので、どうか皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

お礼とご報告

◆寄付のお礼とご報告

(公財)日中友好会館は、皆様から多大なるご寄付を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

ご芳名の公表を了承いただいた方につきまして、ご紹介いたします。

(2012年11月から2013年3月まで
順不同 敬称略)

株式会社 ディスコ

株式会社 三菱東京UFJ銀行

三井不動産 株式会社

お寄せいただいたご厚志は、有効に活用させていただき、留学生支援を通じて、次代における日中の懸け橋となる人材を育成し、社会に還元いたしたいと存じます。

弊会館は、日中両国の相互理解促進と安定した関係構築のため、より一層努力を重ねて参ります。今後とも、皆様の温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



理事長のツイッター

(公財)日中友好会館 理事長 武田 勝年

3月に開催された理事会、評議員会で平成25年度事業計画が承認され、4月1日から新年度が始まりました。改めて気が引き締まる思いです。

事業計画の冒頭に掲げた4つの重点施策をご紹介します。公益法人移行の初年度(平成24年度)の運営実績と反省を踏まえて策定したものです。いずれも完璧な達成は困難ですが、全職員一体となって努力したいと思います。

- (1) 組織運営の規範化・透明化
公益法人に対して法的に要求されるレベルを達成し、外部関係者と内部職員に対する説明責任を果たします。
- (2) 職員の自主性尊重と活性化
人材は宝であり、力の源です。より充実した事業を展開するために個々の職員が自分で考え、実行し、成果を楽しむことができる環境を共に構築します。
- (3) 対外発信機能の強化
昨年2月発足した広報チームを中心に、社会に対する情報提供を強化します。当会館の活動は地道ですが、幅広く社会の理解と支援を得る必要があります。
- (4) 保有資産の価値の維持と収益確保
後楽寮の運営と文化事業のための財源は、保有する資産を活用して生み出す必要があります。当会館は賃貸ビルのオーナーで、ホテル経営者でもあるのです。



◆草の根交流の大事さ◆

(公財)日中友好会館 副会長 宮本 雄二

1980年代のはじめ、北京に勤務していたころ、たまたま、ある縁で中国人の一家と知りあいました。文化大革命中は、外国人と付き合うことなど考えられない時代でしたが、80年代初めの中国でも、大使館員が普通の中国人と知りあうのは、まだまだ難しい時代でした。彼らのアパートを訪ねるようになり、父君にお会いし、この方が元日本留学生であり、なおかつ私の大学の先輩であることが分かりました。八方手を尽くし、ついに大学時代の友人を探し出しました。

北京で40年ぶりの再会を果たした二人は、たちどころに大学時代にもどり親しげに散策し、語り合っていました。日本の友人は、しばらく躊躇した後、兵隊として中国に来たことを告げました。そして静かに、中国の人には一発も打たなかったからな、と言いました。中国の友人は、何度もうなずいていました。私が、あれほど日本が発展していることを説明しても、日本政府の“プロパガンダ”と思われたのか、全く信用してくれなかった同じ人物が、この日本の友人が話すことは、全部信用するのです。

この元留学生は、下宿の賄のおばさんのことを懐かしく話してくれました。試験の日になると、「がんばってやー」と、自腹で朝食に生卵を一個つけてくれたというのです。彼は、中国人を侮る雰囲気が強かった時代に日本で学び、日中戦争が始まるとともに帰国しました。それでも、この友人や下宿のおばさんのおかげで、最後は日本人を赦すのです。草の根交流の凄さを実感した瞬間でした。

会館行事と人の動き 3/1～31

● 会館行事

- 3/ 4～3/11 ▶ 「平成24年度中国大学生代表团」来日(3/5同団歓迎会、3/10歓送報告会)
- 3/ 5 ▶ 日中学院評議会
- 3/ 5～3/ 6 ▶ 後楽寮生日本文化体験(於:群馬県)
- 3/ 5～3/10 ▶ 貸美術館催事「中国奥地の蘭展・書道展」
- 3/ 7 ▶ 後楽会気功・中国画教室
後楽会談話会「中国民族楽器 古箏鑑賞とお話」(講師:孔曉鑫)
- 3/10～3/17 ▶ 「“JENESYS2.0”中国青年メディア関係者代表团」来日(3/11同団歓迎会、3/16歓送報告会)
- 3/12 ▶ 第6回理事会
- 3/15 ▶ 日中学院卒業式
- 3/19 ▶ 文化事業諮問委員会
- 3/21 ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 3/21～3/24 ▶ 「日中学生友好交流事業訪中団」訪中
- 3/25～3/28 ▶ 主催展「第3回 日中国会議員・公務員書道展」(3/25同展開幕式、交流揮毫会)
- 3/26 ▶ 第22回観桜会(於:小石川後樂園涵徳亭)
- 3/27 ▶ 第3回評議会
- 3/29～4/9 ▶ 山東省濰坊鳳長崎巡回「長崎伝統紋様ハタと山東省濰坊鳳展」(於:長崎新聞社文化ホール)
- 3/31 ▶ 寮生委員会主催花見(於:新宿御苑)

● 来館・訪問・面会

- 3/ 4 ▶ 中日友好協会・王秀雲副会長一行との会食(江田会長、武田理事長、王中国代表理事他)
- 3/ 8 ▶ 中国新聞社東京支局 孫冉氏 来館(武田理事長他)
- 3/14 ▶ 後楽会(中国)友好聯議会 李澤秘書長来館
中国大使館 教育処 白剛公使参事官 往訪(武田理事長、留学生事業部他)

● 行事参加、その他の活動

- 3/ 8 ▶ 中国大使館主催国際婦人デー記念パーティー
- 3/21 ▶ 中国留学生友の会招待「岡崎ゆみピアノリサイタル」(後楽寮生12名)
- 3/30 ▶ 中日交流会花見(後楽寮生)